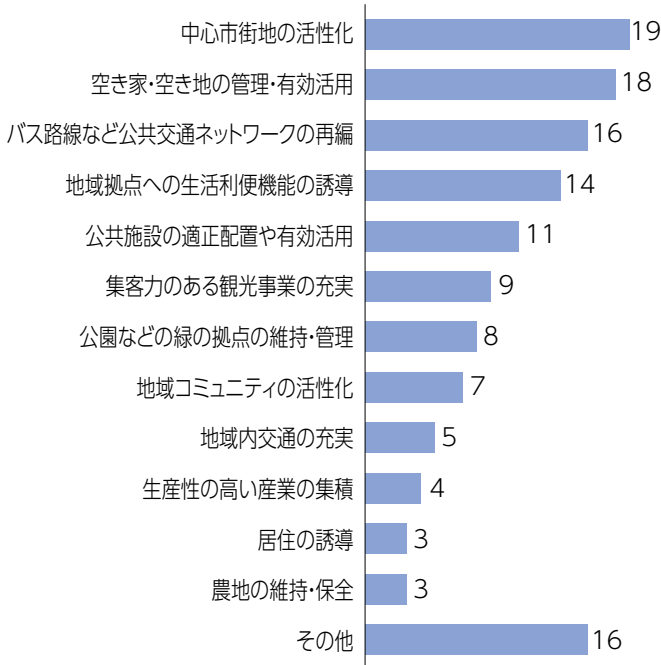




前回の広報うつのみやプラス「NCC（ネットワーク型コンパクトシティ）」に対して50人の市民の皆さんから意見をいただきました。代表的なものをご紹介します。

(1) ネットワーク型コンパクトシティ形成のために優先的に進める取り組みは何だと思いますか。(3つまで)



■ その他の主な意見

- ▽自転車道の拡充が必要(岩曾町・70代)。
- ▽交通ネットワークの構築についてバス会社の積極的参加が必要(戸祭・60代)。
- ▽果物・民芸・音楽など各地域拠点の環境を生かした魅力あるまちづくりが必要(上桑島町・70代)。

(2) ネットワーク型コンパクトシティに関するご意見、ご質問について、自由にご記入ください。

- 理想のネットワーク型コンパクトシティ完成までは長期間を要すると思うが、一步一步取り組むしかない(鶴田町・70代)。
- コンパクト化に重点を置くと不便になる地域が出てくる。その地域をどうつなぐかが問題である(上戸祭2丁目・70代)。
- 市民一人ひとりが住み続けてよかった、さらに将来に渡って、家族を含めて住み続けたいと思える宇都宮の実現を望む(白沢町・60代)。
- 宇都宮市は元来、民間依存型の交通システムであり、将来の発展を考えれば、市主導型を優先すべきである(峰2丁目・70代)。
- JR宇都宮駅周辺など中心市街地形成について、もっとスピード感を持って取り組むべき(元今泉・40代)。
- 地域の空き家を高齢者が集まれる場所にしてはどうか(御幸町・70代)。

前回の広報うつのみやプラス「ネットワーク型コンパクトシティ」の概要



コンパクトなまちづくりに向けて
これから本格的な人口減少や、少子・高齢化時代を迎えようとしています。このような中でも、市民の誰もが住み慣れた地域で、安全で快適な暮らしを送るためには、市内の各地域を維持し、発展させていく必要があります。都市の機能や人口を各地域の拠点に集め、それらを交通のネットワークでつないだネットワーク型コンパクトシティの形成が必要です。

ネットワーク型コンパクトシティの実現に向けて

市中心部の「都市拠点」と、周辺部の14の「地域拠点」の2層の拠点をつくり、それぞれの拠点の結びつきや役割分担により、市民生活に必要な機能を満たせるまちをつくります。また、「産業」「観光」の拠点をつくり、市内の経済活動を活性化するとともに、市民の憩いの場所を提供します。さらに、使う目的によって適したものを選ぶことができるバランスのとれた交通ネットワークを構築し、誰もが自由に移動できるまちをつくります。

市民とつくるネットワーク型コンパクトシティ

市の取り組み以外にも、高齢者や子ども・子育て世代を地域で見守るコミュニティの活動や伝統・文化の保全、公共交通や身近な商店の積極的な利用、住み替えのタイミングに合わせた拠点への居住など、市民の皆さんによる取り組みがネットワーク型コンパクトシティの実現には必要不可欠です。

広報うつのみやプラスや政策特集は、皆さんと一緒に考えていただきたいテーマを取り上げ、年4回編集します。

料金受取人払郵便

3208740

宇都宮中央郵便局
承認
3269

差出有効期間
平成28年8月
15日まで
【切手不要】

(受取人)
宇都宮市旭1丁目1番5号

(宇都宮市役所)
宇都宮市総合政策部広報広聴課

行



3 2 0 8 7 4 0

3

氏名	住所	
年齢	歳	職業

差し支えがなければ記入してください。広報紙で意見を紹介する際には、氏名の記載はしません。なお、はがきの情報については、目的以外には使用しません。